

褥瘡対策

皮膚科 小野秀貴

褥瘡（とこずれ）とは、自発運動の低下、運動麻痺、知覚障害、関節拘縮や骨の突出などが原因で、体の一部に持続的な圧迫が加わることにより、皮下の血液循環が阻害され、皮膚および皮下の組織が障害されることです。その発生には、患者さんの全身状態や皮膚の状態など多くの要素がかかわっています。

高齢化の進展に伴い、寝たきりなどの入院患者数の増加とと

もに褥瘡発生の危険の高い患者さんが増加しております。医療機関でも褥瘡の発生予防、発症後早期からの適切な処置を含めた必要な対策を実施する体制を整備することが必要となってきました。当院でも医師 1 名、看護師 4 名からなる褥瘡対策チームが昨年 7 月より活動を開始しました。

褥瘡は発生してしまうと治療が困難なため、予防が最も重要

となります。当院では現在、全入院患者さんに対して、入院時及び必要に応じて、日常生活の自立度の判定を行います。その結果、褥瘡の発生の危険がある入院患者さんについては、褥瘡対策に関する診療計画を作成し、体圧分散式マットレスの使用などを含め、積極的に褥瘡の発生の予防に取り組んでいます。又、実施状況の把握、及び指導を褥瘡対策チームが行っています。

又、以前は、医療者の無関心、知識不足も褥瘡発生の要因となっていました。昨年7月から、

医療スタッフを対象にした褥瘡についての勉強会を定期的に行い、根拠(エビデンス)に基づく医療、ケアの標準化及び質の向上、維持につとめ、褥瘡の予防、治療に取り組んでいます。

